

富士河口湖町立 教育センターだより

No.23



平成29年3月17日 文責 遠山 榮子

子どもは何よりも尊い宝



寄贈 梶原 憲十郎先生 平成17年10月

蔵寶（ぞうほう）

「どんな財宝より子どもは何よりも尊い宝」

という意味で揮ごうされたと聞いています。教育センターに入ると右側の壁に掲げられ、ずっと、ずっと子ども達だけでなく、来訪者・この教育センターを見守ってきています。

3月14日（火）に、第2回運営協議会が開かれました。18名からなる運営協議会は、「蔵寶」と同様に、この教育センターを設立当初より見守ってきています。運営委員さん方

からご意見を頂き、事業を推進していくことから、この運営協議会の存在意義は、大きいものです。今澤真治委員長を座長に、1回目に頂いた貴重なご意見に対する実施内容をも含めて、センター所長が、本年度の事業のまとめと課題を報告をさせて頂き、話し合いました。主な内容は以下のとおりです。

◆教育相談業務の充実と学校・教育センター・関係機関とのより密接な連携について

教育相談業務では、教室に居場所が見いだせず不登校また不登校傾向の児童生徒を理解し、居場所作りと学習支援・体験活動・登校できるような支援、センターを巣立った人へのアフターフォロー、保護者の相談など日々多岐にわたりました。家庭・学校・教育委員会・SSW・福祉推進課等と連携してきました。今後とも、児童生徒も相談員も、多くの方々と関わり協力しながら、根気強く不登校傾向の児童生徒への支援を中心に教育相談業務を遂行したいと思います。

◆インクルーシブ教育に対する学校・家庭・地域の理解について

教師や支援員に対して、カウンセリング講座、支援員対象研修会、特別支援研修会を実施し、支援の必要な児童生徒の理解と指導について学びました。来年度も、継続したいと思います。

◆副読本の活用や地域教材の発掘活用について

特に富士山学習研究会の中で、副読本の活用や地域教材の発掘が行われ、富士山の麓の地形・地質、河口湖と新倉掘抜との関連や地域人材の活用により、学びを深める学習指導の公開研究がなされました。理科環境教育副読本の改定も行われました。活用も含め、更に充実させたいと思います。

◆教育長からは、次期指導要領への対応、学習する環境・心構え・前提を構築すること、「教育のできる社会づくり」を優先しなければならない時代ではないか等のお話を頂きました。時代を見据えた教育の在りようを

学校現場でどう具現化するのか、そのために教育センターはどうあるべきか検討しつつ、来年度も、事業を推進し、郷土を知り、郷土に誇りをもつ心豊かな児童生徒の育成に寄与していきたいと思ひます。センターに関わっていただいた多くの皆様、本年度の教育センターへのご理解とご協力に対し改めて感謝するとともに、次年度も引き続き、その責務を果たせるよう頑張っていきたいと思ひます。ありがとうございました。



センターを巣立つ子どもたちへ

まだ見ぬ明日に
迷い立ち止まることもあるだろう
そんなときは
後ろを振り返ってごらん
勉強したり活動したり
その時々を一緒に過ごした
友達や先生方が
ちゃんと見守っている